

本号のテーマ：「夢や希望をもつということ」

○ はじめに

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様にとりましてよい年でありますように。



今年は2020東京オリパラの年です。昨年の新年のあいさつでも述べさせていただきましたが、見えないところのあり方を大事にする日本の本領が発揮された大会にしたいものです。「本物のおもてなし」とは、・・・改めて国民レベルで大事にしたい問いです。

ところで、佐久市教育大綱には、

生涯にわたり主体的・創造的に学び、生きる力を育む人づくり、街づくり

を基本理念として掲げておりますが、さらに、その具現に向けて学校教育が目指す子ども像を、

夢や希望をもって輝き、ともに生きる子ども

としております。

本号では新年の出発に当たり、まさに「夢や希望をもって」主体的に学び、挑戦し、最高に輝いている本市の二人の高校生を紹介しながら、改めて夢や希望をもって学ぶことのすばらしさに言及したいと思えます。昨年のうれしいビッグニュースのひとつとなりました。

○ 「全日本高校生 WASHOKU グランプリ 2019」

～ 野沢南高校生グランプリ受賞！ ～

◇ 同事業開催の趣旨は

これは、金沢市が開催委員会を立ち上げて行った事業ですが、その実施要項には次のように趣旨が謳われています。

【開催趣旨（一部省略）】

和食が、ユネスコ無形文化遺産登録や健康志向の高まりを機に、国内外から注目が高まる中、ここ金沢において、高校生の熱き情熱で創造力を高め合う全日本高校生 WASHOKU グランプリを開催することで、次代を担う料理人を発掘・育成し、まちの価値を高める和食の聖地を目指す。

◇ 最高賞の栄冠に

昨年が同グランプリの第 1 回。その最高賞であるグランプリに輝いたのが野沢南高校普通科 3 年の萩原彩音さんと櫻井真優さんのお二人。

献立は、「長寿の里信濃の鯉づくし御膳」（写真）でした。



熟成鯉の漬け丼 佐久平の恵み椀 佐久鯉の唐揚げ
旬野菜と佐久鯉のたたき そばくずもち

◇ 専門学科に学ぶ強豪の中で

グランプリのお二人は、先に紹介しましたように普通科の高校生です。ところが他の入賞者は全員食物関係の専門学科に学ばれている皆さんでした。因みに、食物調理科、食デザイン科、食物科、調理科の高校生です。

萩原さんと櫻井さんは「佐久鯉人倶楽部」というチーム名で出場されましたが、専門学科に学ぶ強豪の皆さんが並居る中で、その挑戦は並大抵のことではなかったと推察されます。

◇ 金沢市長山野之義氏 受賞者との懇談に（11月22日ご来市）

グランプリ 2019 の決勝大会が行われたのは昨年8月7日のことでした。関係者にお聞きしたところ、審査には予定外の時間を要し、表彰式が当初の計画から1時間以上遅れる事態となったのだそうです。結果、山野市長さんの他の公務が重なってしまい、グランプリ受賞者への表彰は急遽副市長さんが代行されたとのこと。

山野市長さんはこの状況をずっと気にかけておられ、何とかして直に表彰し、また懇談したいということで11月お見えになりました。

「私にとっては第1回全日本グランプリがまだ終わっていなかったのです。」と熱い想いを添えて受賞の二人を称えてくださいました。

○ 夢や希望をもって輝くことの意味

ここでしばし、グランプリ受賞の話から離れますが、本市学校教育が目指す子ども像として掲げている「夢や希望をもって輝き」について、少し広い視点からその意味を一般化してとらえ直してみたいと思います。

わかりやすく換言すれば「明日（将来）のことを考えて生きる」人間のありようであろうかと考えています。ひとつエピソードを紹介します。

◇ T少年のこと

私は多く、中学校現場で教鞭をとってきましたが、この、「明日（将来）のことを考えて行動する（生きる）」ことができるかどうか、子どもが健全に育っているかどうかの重要かつ代表的なバロメーターになると考えてまいりました。

ある中学校でのことです。

私が学級担任をしていたクラスに、どちらかというと刹那的な生き方をしているお子さんがいました。今が楽しければよくて、明日のため、卒業後のために今なすべきことという発想にはなかなかありません。金色で、リーゼントの髪形を決め、短ランをカッコよく着こなして白いエナメル革靴で闊歩する少年で、時には自宅のバイクを改造して庭で乗り回すこともありました。

ある日の数学の時間のこと。図形の問題を解く場面でしたが、普段数学を得意とする生徒も頭を抱え込んで、かなりの時間が経過しておりました。その時、一人の少年がクラスの沈黙を破って「できた！」と叫び声をあげました。解決の決め手となる補助線を発見したその少年こそ、愛する「リーゼント君」だったのです。

彼はバイクのエンジンまで分解・組み立てをしてしまう腕をもっていましたので、形のもつ構造性に対する目の付け所が違っていました。それまでも時々光を放つことはあったのですが、この時ばかりは級友から「T君すごい！」と称賛され、尊敬のまなざしまで浴びる事態となりました。

その後、図形博士の異名をとった彼は、何と、次の数学の内容を私に尋ねるようになったのです。私は、「おっ、明日のことを考えるようになってきたぞ。」と喜びました。彼にとってこの問題解決は、人生におけるただごとならぬ快挙になったと確信しました。

明日（将来）のことを考えて生きることは、「今楽しければいい」というありようと比べれば反対の、苦しいことに向き合うことのほうが多くなりましょう。しかし、将来のために困苦に向き合う人間のありようは、人としての輝きを本物にします。

○ おわりに

さて、グランプリの話に戻りますが、先日、萩原さんのお母様とお話する機会がありました。お嬢さんは、今回の受賞を追い風に、将来は、多くの人々から求められ愛される和食の料理人になりたいとのこと。今、「明日」に向かって勉強し輝いているそうです。

輝く生きざまに出遭えたこと、感謝です。そして、今後の挑戦に大応援歌を送ります。